

運動疫学 ニュースレター



令和7年6月2日発行 No.23

第27回 日本運動疫学会学術総会のご案内

第27回学術総会大会長／医薬基盤・健康・栄養研究所 小野 玲



7月4日（金）・5日（土）に摂津市より後援を受け、摂津市立コミュニティプラザを会場とした、第27回日本運動疫学会学術総会を開催します。本会開催にあたり準備の段階からお力添えをいただいている全ての方々に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。

本会のテーマは「千言万歩（せんげんまんぽ）～エビデンスに基づく実践の道標～」と題しました。身体活動・運動を適切に維持向上させることで、生活習慣を中心とした疾病予防や生命予後改善に大きな役割を果たすことは、さまざまな研究結果からわかってきています。しかし、平成25（2013）年度から令和4（2022）年度の健康日本21（第二次）の最終評価においては、歩数・運動習慣ともに、目標値に達することはできず、65歳未満女性の運動習慣は減少していました。つまり、身体活動・運動をすることは大切と言う（千言）だけでなく実際に動かす（万歩）ことを中心とした研究成果が求められています。今大会は、培われたエビデンスを社会で実践するためにどうすべきか？を参加者と共に考えることで、国民の身体活動、運動習慣の向上の一助になれるような大会にしたいと思っています。

7月4日は、2つのシンポジウム「運動疫学分野におけるビッグデータの活用」、「身体活動支援環境の整備をどう進めるか」、1つの教育講演「Target Trial Emulation の枠組みと実践」に加え、口頭発表やポスター発表を行います。7月5日は、2つのシンポジウム「デ

ジタル技術を人々の健康にどう役立てるのか」、「健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023の課題と今後」、1つの教育講演「身体活動の普及人材育成プログラム」に加え、学術委員企画、市民公開講座を開催予定です。また、これらに加え、

コロナ前には恒例であった交流会である「懇親会」を4日の夜に会場で開催予定です。ぜひ、知識を増やすだけでなく、（魔法のお薬の力を借りて）様々な分野、職業、立場の方々と交流を深めていただければと思います。学術的な議論はもちろん、異なるバックグラウンドを持つ方々とのネットワーキングの機会としてもご活用ください。スタッフ一同準備しておりますので、ご参加いただきますようお願いいたします。



CONTENTS

1. 第27回 日本運動疫学会学術総会のご案内 1
2. 第24回 運動疫学セミナー開催のお知らせ 2
3. 第10回 運動と健康：分野横断型勉強会のお知らせ 2
4. プロジェクト研究の紹介と会員の皆様への研究参加のお願い 3
5. 「多分野の協働で実現する身体活動促進シンポジウム2025」開催報告... 3
6. 第4回 Asia-Pacific Society for Physical Activity (ASPA) Conference 参加報告 4
7. 「アクティブガイドー健康づくりのための身体活動・運動ガイド2023ー（アクティブガイド2023）」に賛同する公式声明 4
8. 私と運動疫学 4

第24回 運動疫学セミナー開催のお知らせ

セミナー委員長／医薬基盤・健康・栄養研究所 門間 陽樹



運動疫学セミナーは「身体活動・運動の関連分野における疫学マインドを広めること」を目指し、グループワークによる研究計画立案に特化した演習形式の2泊3日のプログラムです。ベーシックコースとアドバンス

コースが設定されており、ベーシックコースではわかりやすいオンライン講義と現地での解説も行われるため、体系的に運動疫学を学びたい方や初学者の方でも参加できるプログラムとなっています。今回のセミナーは通算3回目となります立地・施設ともに大人気の帝京大学箱根セミナーハウス@神奈川で行います。3回目の開催となりますので、食事量の調整※はもとより、より快適で充実した合宿を目指して、セミナー委員一同、準備を進めております。ぜひ、箱根の地で生涯の研究仲間を見つけてみませんか？多くの方々の参加を心よりお待ちしております。

※“運動”疫学セミナーという名前から（ご厚意で）名だたる帝京大学の運動部並の食事が提供されていた。今回は量を減らす代わりに質を上げることに注力する予定。期待してください。

日程：2025年9月5日（金）～7日（日）（2泊3日）

会場：帝京大学箱根セミナーハウス

（http://www.teikyo.jp/hakone_seminar/）

〒250-0408 神奈川県足柄下郡箱根町強羅1300-30

（箱根登山電車強羅駅より一番坂登る：徒歩5分）

参加申込：日本運動疫学会のホームページ

（6月上旬～中旬頃から開始予定）

受講料：【会 員】一般（有職者）40,000円 学生 35,000円

【非会員】一般（有職者）45,000円 学生 40,000円

定 員：約30名（定員になり次第、締め切る予定）

各コースの課題は以下のとおりです。

・ベーシック（講義）コース

【課題】グループワークにて観察研究／介入研究の研究計画を1つ立案し、発表する。

・アドバンス（演習）コース

【課題】グループワークにて社会実装を見据えた研究計画を立案し、発表する。必要に応じて下位課題も設定する

※アドバンスコースへの参加を希望される方はベーシックコースを修了、もしくは、同程度の知識や経験を有することが望まれます。

第10回 運動と健康：分野横断型勉強会のお知らせ

学術委員・広報委員／名城大学 香村 恵介

「運動と健康：分野横断型勉強会」は、身体活動と健康に関連するテーマを多角的に取り上げ、分野を越えた研究者・実務者が学び合い、つながりを深めることを目的としています。

記念すべき第10回となる今回は、「自治体等の身体活動促進の取り組みによる効果をどのように分析・評価するか？」をテーマとして、第79回日本体力医学会大会（立命館大学びわこ・くさつキャンパス、9月17～19日）に先立ち、2025年9月16日（火）15：00～17：00に同キャンパスにて開催予定です。

「自治体の施策評価って、なんだか難しそう…」と思った方も、「ちょうど関心があった！」という方も、「気になるからちょっとのぞいてみようかな」という方も、どなたでも大歓迎です。多くの皆さまのご参加を心よりお待ちしております。

■日時

2025年9月16日（火）15：00～17：00（予定）

※終了後に懇親会の開催も計画中

■会場

立命館大学びわこ・くさつキャンパス

※教室は後日ご案内予定

■テーマ

自治体等の身体活動促進の取り組みによる効果をどのように分析・評価するか？

■概要

自治体や関連機関が実施する身体活動促進の取り組みでは、エビデンスに基づく計画・実施・改善のために、公衆衛生や疫学の専門家の関与が求められつつあります。特に、自治体の取り組みでは、住民全員に対してランダムに介入を提供することが難しいため、横断調査や準実験的デザインを用いて効果検証することが多くなります。本勉強会では、自治体等における身体活動促進の取り組みの計画・実施・評価に関わる研究者や専門家を主な対象として、横断的調査手法や準実験的手法を用いた効果評価の方法や解析の流れについて学びます。

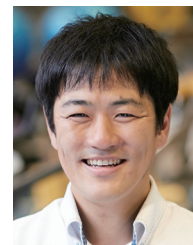
■講師

辻 大士 先生（筑波大学 体育系 助教）

「繰り返し横断調査による地域介入の手がかり発見と効果評価」

鎌田 真光 先生（東京大学 医学系研究科 准教授）

「準実験デザインによる地域介入の評価」



プロジェクト研究の紹介と会員の皆様への研究参加のお願い

プロジェクト研究代表／神戸大学 原田 和弘

この度、プロジェクト研究『厚生労働省ガイドラインに基づく身体活動・運動・座位行動・体力と健康に関する研究課題の同定：ガイドライン策定研究班と日本運動疫学会員を対象とした検討』を採択いただきました。研究組織は <https://jaee.jp/research/> をご覧ください。

厚生労働省が発表した「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」では、今後の研究課題として、妊産婦や障害のある人の科学的知見が不足している点、座位行動の中断による健康影響に関する科学的知見の蓄積が必要である点、筋力トレーニングは頻度の推奨に留まる点に言及しています。しかし、これらの点以外にも、身体活動・運動・座位行動・体力と健康について、多くの重要な研究課題が存在している可能性があります。

そこで本プロジェクトでは、厚生労働省の「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」および付随して公表された新アクティブガイドに基づき、身体活動・運動・座位行動・体力と健康について、今後の日本で取り組むべき研究課題を詳細かつ網羅的に整理します。また、運

動疫学研究に携わる専門家が、整理した研究課題のうち、どの課題を優先順位の高いものと認識しているのかを明らかにします。

このプロジェクトの一環として、日本運動疫学会員向けアンケートの第1弾を実施中です。間もなく回答締め切りとなりますので、お済みでない方は本紙面のQRコードよりぜひご回答をお願い申し上げます（2025年6月8日締め切り予定）。また、会員向けアンケートの第2弾も6月後半から7月前半にかけて行う予定ですので、そちらにもご回答いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

本プロジェクトは、身体活動・運動・座位行動・体力と健康に関する研究発展の一助となることを目指しています。また、本プロジェクトの成果は、日本運動疫学会内で積極的に発信し、学会員と広く共有できるように努めます。引き続きご支援のほどよろしくお願い申し上げます。



「多分野の協働で実現する身体活動促進シンポジウム 2025」開催報告

理事・セミナー委員／東京大学 鎌田 真光



2025年3月4日、東京大学本郷キャンパスにて、「多分野の協働で実現する身体活動促進シンポジウム 2025」が開催されました。本シンポジウムは、日本運動疫学会による実務家向けセミナーのキックオフとして、慶應義塾大学 KGRI / 慶應スポーツ

SDGs センター、東京大学大学院医学系研究科保健社会行動学分野との共催で実施されました（後援：スポーツ庁、公益財団法人笹川スポーツ財団、公益財団法人健康・体力づくり事業財団、東京大学スポーツ先端科学連携機構）。参加者は現地・オンライン合わせて計304名で、大学・研究機関のほか、自治体や企業・団体など幅広い分野からの参加がありました。



本シンポジウムでは、身体活動の普及には長期的かつ多面的な取り組みが必要であり、実践を担える人材や体制が重要であること、運動疫学会は普及事業の評価に貢献できる専門性を有することが共有されました。また、成功事例として、島根県雲南市と神奈川県藤沢市の取り組みが紹介され、地域連携やSDGsと結びつけたシステムズ・アプローチが注目を集めました。アンケートでは95%が「満足」と回答し、実践的な情報が得られたとの声のほか、協働の方法や事例共有の継続を望む意見が多数寄せられました。7月の第27回学術総会（大阪府摂津市）では、関連した「普及人材育成プログラム（仮）」も予定されています。ぜひご参加ください。



第4回 Asia-Pacific Society for Physical Activity (ASPA) Conference 参加報告

副理事長／筑波大学 中田 由夫；筑波大学 SHI YUTONG, ZOU CHANG, KIM JIHOON

2024年11月20日から22日にオーストラリアのパースで開催されたThe 4th Asia-Pacific Society for Physical Activity (ASPA) Conferenceに参加してきました。この学会には、アジア太平洋地域における専門家と研究者が集まり、幅広い年齢層に対する身体活動介入、政策、環境戦略、実装科学などの課題が取り上げられ、この分野の潮流を確認することができました。

最も印象的なセッションは、WHO東南アジア地域事務局アドバイザーのAngela De Silva博士の基調講演で、東

南アジア地域における身体活動ガイドラインの実施状況と今後の方向性について貴重な情報が得られました。その他、身体活動促進のための都市計画政策に関するトピックでは、徒歩、自転車などの公共交通手段を奨励する政策が提唱されていました。

会場の雰囲気は素晴らしく、セッションとセッションの間にストレッチタイムも設けられていました(写真①)。海辺のレストランにも行き、素晴らしいディナーと夕暮れの景色を楽しむことができました(写真②)。



写真①



写真②

「アクティブガイドー健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023ー（アクティブガイド 2023）」に賛同する公式声明

公式声明委員長／神戸大学 原田 和弘

本学会は、2025年4月1日に、「アクティブガイドー健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023ー（アクティブガイド 2023）」(2024年12月：厚生労働省作成)への賛同を趣旨とした公式声明を発表しました。本学会は、2024年4月に、このガイドの基となる「健康づくりのための身体活動・運動ガイド 2023」(2024年1月：厚生労働省作成)への賛同を趣旨とした公式声明も発表しております。一連の公式声明が、国民の身体活動促進の一助となることを願っております。



<公式声明掲載のweb サイト>



<プレスリリース掲載のweb サイト>

私と運動疫学

監事／東海大学 久保田 晃生



私と運動疫学の出会いは20年ほど前です。当時、静岡県で健康運動指導士として働いていた職場の研修会の講師であった種田行男先生に、実践現場で得られたデータの活用などをご相談したところ運動疫学研究学会、セミナーへの参加を勧められました。研究会やセミナーの参加を通じ、受講者や運動疫学の基盤を築いた荒尾孝先生との共同研究にも繋がりました。静岡県は第1回の健康寿命をのぼそう!アワードで最優秀賞を受賞しましたが、静岡県の職場で進めた研究や実践がその際に評価されました。運動疫学に出逢ったことで繋がりました。2022年には、井上茂先生の後押しから学術総会を東海大学で開催させて頂きました。近年の学術総会の大会長が初期のセミナー受講者が務めて、繋がっていることは大変感慨深いです。現在の理事長の岡浩一朗先生には、常に新しい研究の視点をご教授頂き、在外研究もご相談し、海外で活躍していた杉山岳

巳先生に繋げて頂きました。杉山岳巳先生からは、運動疫学の権威であるNeville Owen先生やEster Cerin先生との接点も繋げて頂き、国際的な研究者の仕事を実際に目にすることが出来ました。20年前に、躊躇なく運動疫学に飛び込み、学会活動や深夜におよぶ懇親会へしつこく参加したことで、多くの方との出逢いに繋がりました。運動疫学に出逢った後で、職場が大学に移り、運動疫学を繋げる役割も萩裕美子先生と一緒に進め、運動疫学研究で学位を取得する人を輩出できていることも嬉しいです。20年を超え、運動疫学の広がりを強く感じますが、同志を今以上に増やし、国民の身体活動を高めることに貢献する研究や実践を一緒に進め社会貢献したいです。最後になりますが、私の恩師である波多野義郎先生から、Steven Blair先生に身体活動量の把握に日本の歩数計の提供を求められたお話を後々聞く機会がありました。よく考えると、運動疫学に触れていた先生に最初から繋がっていたとご縁を感じます。

日本運動疫学会の最新情報は公式ホームページを確認してください。公式HP：<http://jaee.jp>

・会員の投稿論文を募集しています。

・会員の運動疫学研究を支援しています(セミナー、勉強会、プロジェクト研究)。

・新規会員を随時募集しています。



発行：日本運動疫学会
編集：日本運動疫学会 広報委員会
日本運動疫学会事務局

〒359-1192 埼玉県所沢市三ヶ島2-579-15
早稲田大学スポーツ科学学術院内

E-mail：jaee.info@gmail.com